



富山東部地域

富山東部地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 富山東部地域の再編対象校は太田小である。
- (2) 再編原案では適正規模を確保できる。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (8校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
東部	3	99	2	65	3	75	3	80	2	69	3	87	16	475
新庄	3	89	3	101	4	128	3	86	3	92	3	106	19	602
新庄北	3	86	3	95	3	92	3	98	3	85	3	101	18	557
藤ノ木	5	178	6	191	5	171	5	185	5	176	5	175	31	1076
広田	2	50	2	47	2	56	2	49	2	51	2	44	12	297
山室	3	87	3	98	3	97	3	74	3	93	3	83	18	532
山室中部	3	88	3	91	3	92	3	89	3	82	3	101	18	543
太田	1	36	1	28	1	32	1	34	1	34	1	34	6	198

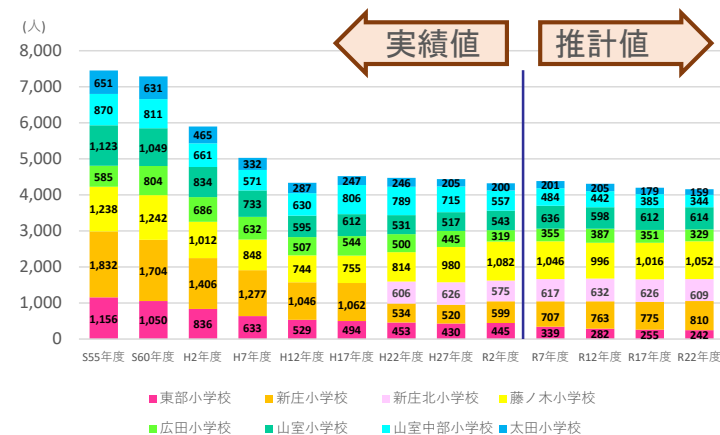
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
東部	3	103	3	109	3	85	9	297
新庄	6	232	6	228	5	198	17	658
山室	6	187	6	203	5	196	17	586
藤ノ木	5	167	4	144	4	159	13	470

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

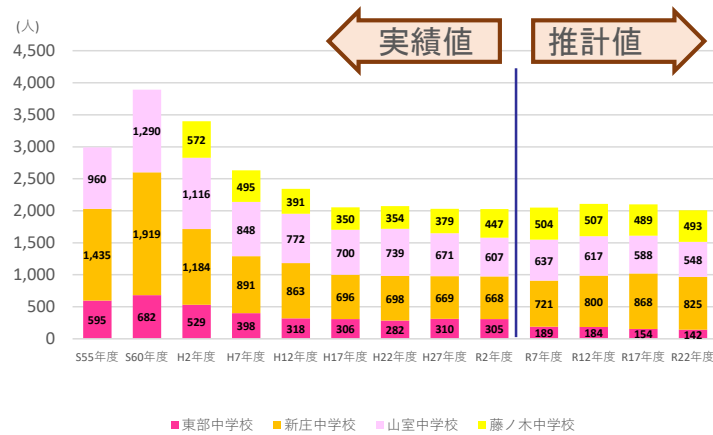
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

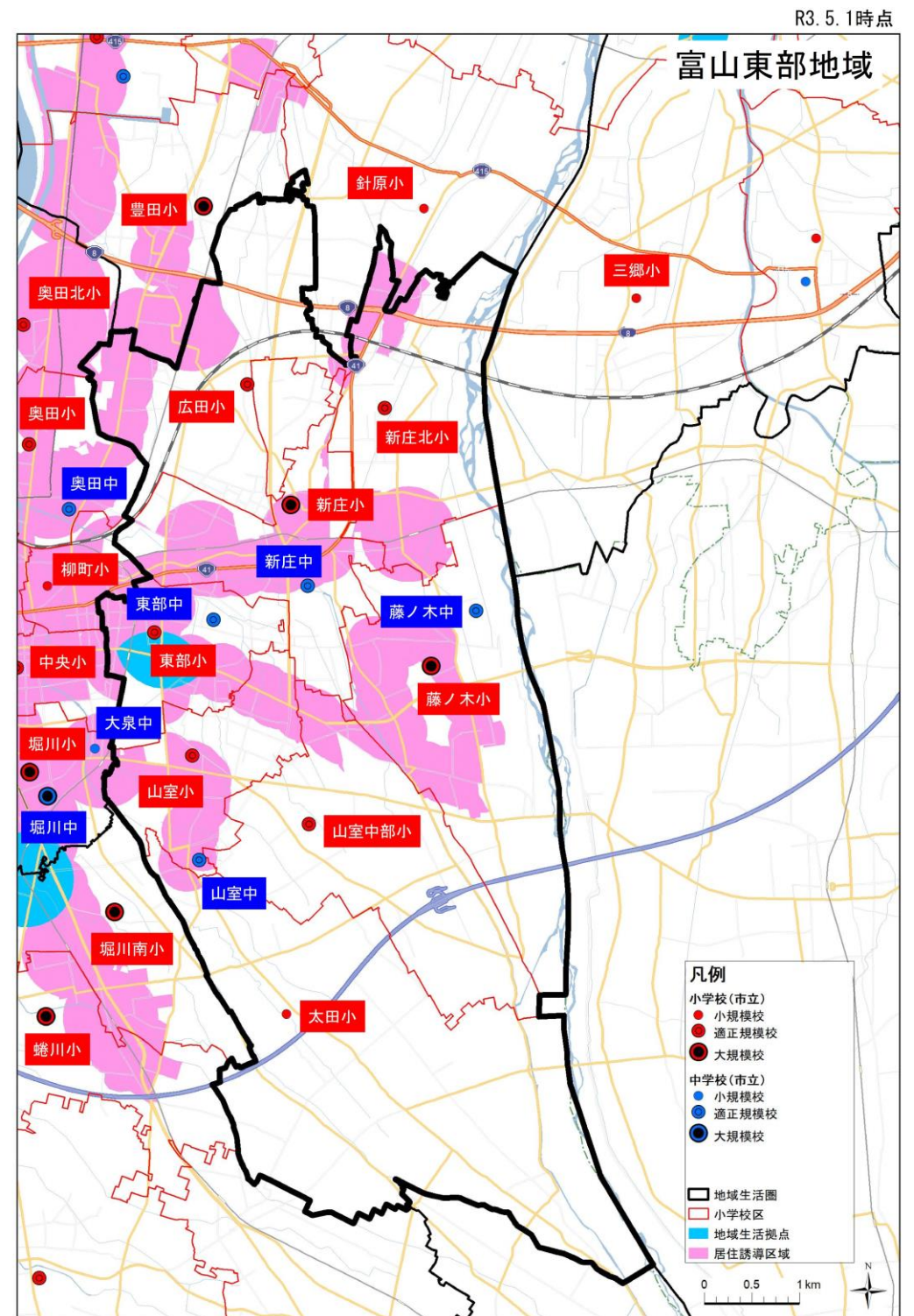


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



富山東部地域小・中学校再編原案リスト



《地域内の学校》

小学校：東部小学校、新庄小学校、新庄北小学校、藤ノ木小学校、広田小学校、山室小学校、山室中部小学校、太田小学校

中学校：東部中学校、新庄中学校、山室中学校、藤ノ木中学校

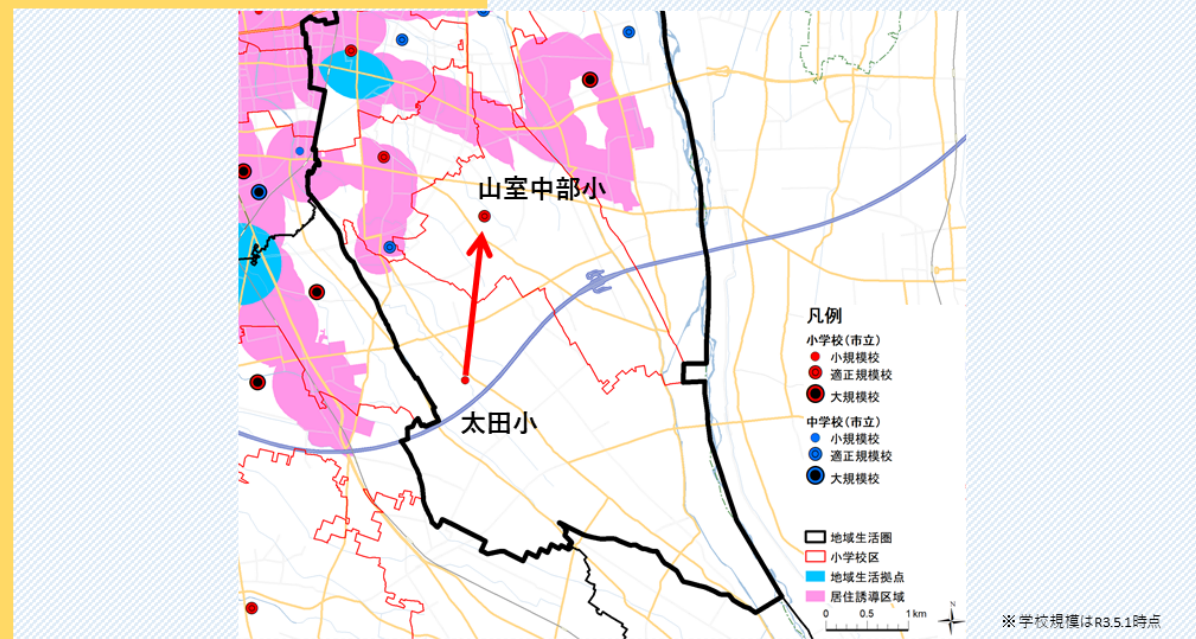
地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ							再編原案	手法				
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況				通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全学年単学級の学校)			R7	R12	R17	R22	R7	R12				R17	R22	R3
富山 東部		太田小学校	山室中部小学校	現 山室中部小学校	大 (21)	大 (20)	適正 (18)	適正 (18)	1	2	4	4	48%	88人	富山東部-1	統合

再編を検討する学校の概況



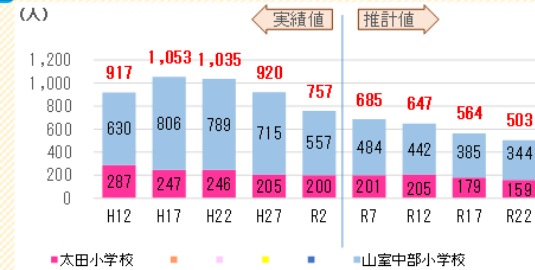
※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)、(3)及び(4)に基づく
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



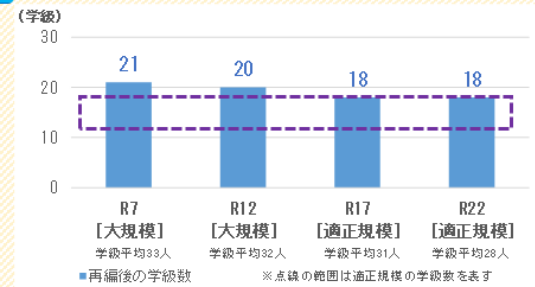
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



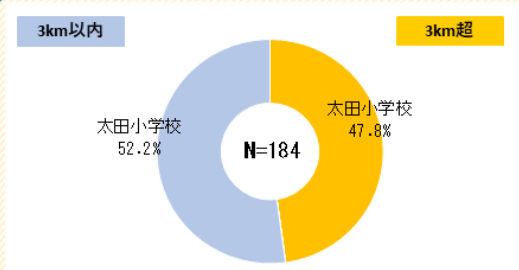
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数45年)	-	C	C	C	C	C
校舎2 (建築年数17年)	-	A	B	A	A	A
体育館 (建築年数10年)	-	A	A	A	A	A

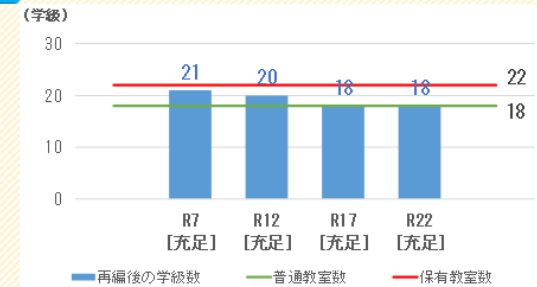
A：概ね良好
B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホト変化率法に基づく推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】校舎の一部で老朽化が進行している。
- 【周辺状況】地域生活拠点内及び居住誘導区域(立地適正化計画)外に位置する。